

日本国特許庁  
JAPAN PATENT OFFICE

TERADA, Masahiro et al.  
Jan. 31, 2002  
BSKB, LLP  
(703) 205-8000  
0879-0373P  
2 of 2

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出願年月日  
Date of Application:

2001年 1月31日

出願番号  
Application Number:

特願2001-024290

出願人  
Applicant(s):

富士写真フィルム株式会社

JC668 U.S. PTO  
10/059316  
01/31/02

特許庁長官  
Commissioner,  
Japan Patent Office

2001年11月16日  
安川耕造  
吉田謙次

出証番号 出証特2001-3100859

【書類名】 特許願

【整理番号】 FJ2001-010

【提出日】 平成13年 1月31日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 H04L 7/00

【発明者】

【住所又は居所】 埼玉県朝霞市泉水3丁目11番46号  
富士写真フィルム株式会社内

【氏名】 渡邊 芳明

【特許出願人】

【識別番号】 000005201

【氏名又は名称】 富士写真フィルム株式会社

【代理人】

【識別番号】 100083116

【弁理士】

【氏名又は名称】 松浦 憲三

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 012678

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9801416

【ブルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 メニューサービス方法及びメニューサービスシステム

【特許請求の範囲】

【請求項1】 ユーザの携帯端末及び/又はクライアント・コンピュータからサービス事業者の識別情報をメニューサーバに送信し、

前記メニューサーバは、前記受信したサービス事業者の識別情報に対応するメニューボタン情報をクライアント・コンピュータに送信し、

前記メニューボタン情報を受信したクライアント・コンピュータは、所定のクライアント・アプリケーションに基づいて前記メニューボタン情報に従ってディスプレイ上にメニューボタンを表示し、該メニューボタンの操作に基づいて対応するサービス事業者のサービスサーバにアクセス可能にし、

前記メニューサーバを管理するメニューサーバ運営事業者は、前記サービス事業者に対して課金することを特徴とするメニューサービス方法。

【請求項2】 前記クライアント・コンピュータは、前記メニューボタンの操作に基づいて該メニューボタンに対応するサービス事業者のアクセス回数のカウント要求を前記メニューサーバに送信し、

前記メニューサーバは、前記クライアント・コンピュータから前記サービス事業者のアクセス回数のカウント要求を受信するごとに、該サービス事業者のアクセス回数をカウントアップし、

前記メニューサーバ運営事業者は、前記サービス事業者ごとに前記アクセス回数に応じて課金することを特徴とする請求項1のメニューサービス方法。

【請求項3】 前記サービス事業者の識別情報は、該サービス事業者の通信機器からユーザの携帯端末に近距離無線通信により送信され、該携帯端末から直接メニューサーバ又は前記クライアント・コンピュータを介してメニューサーバに送信されることを特徴とする請求項1又は2のメニューサービス方法。

【請求項4】 前記サービス事業者の識別情報は、ユーザの携帯端末の入力手段で手入力され、該携帯端末の通信機能により直接メニューサーバに送信されることを特徴とする請求項1又は2のメニューサービス方法。

【請求項5】 前記サービス事業者の識別情報は、前記クライアント・コン

ピュータの入力手段で手入力され、該クライアント・コンピュータからメニユーザに送信されることを特徴とする請求項1又は2のメニューサービス方法。

【請求項6】 前記クライアント・コンピュータは、前記クライアント・アプリケーションに基づいてディスプレイ上に表示されたメニュー更新ボタンが操作されると、前記サービス事業者の識別情報をメニユーザに送信することを特徴とする請求項1、2、3又は5のメニューサービス方法。

【請求項7】 前記メニユーザは、前記サービス事業者の識別情報に対応するメニューボタン情報をユーザごとに管理し、前記クライアント・アプリケーションに基づいてディスプレイ上に表示されたメニュー更新ボタンが操作され、ユーザの識別情報とともにメニュー更新要求を受信すると、該ユーザに対応するメニューボタン情報を当該ユーザのクライアント・コンピュータに送信することを特徴とする請求項1乃至6のいずれかに記載のメニューサービス方法。

【請求項8】 クライアント・コンピュータと、メニユーザ運営事業者のメニユーザとからなるメニユーザサービスシステムにおいて、

前記クライアント・コンピュータは、所定のクライアント・アプリケーションに基づき手入力又は携帯端末から入力したサービス事業者の識別情報を前記メニユーザに送信する機能と、前記メニユーザから受信したメニューボタン情報に基づいてメニューボタンをディスプレイ上に表示させる機能と、前記ディスプレイ上に表示されたメニューボタンの操作に基づいて対応するサービス事業者のサービスサーバにアクセスする機能と、前記サービス事業者のサービスサーバにアクセスするごとに、該サービス事業者の識別情報を前記サービスサーバに通知する機能とを有し、

前記メニユーザは、前記クライアント・コンピュータから受信したサービス事業者の識別情報に対応するメニューボタン情報をクライアント・コンピュータに送信する機能と、前記クライアント・コンピュータからのアクセス通知をサービス事業者ごとにカウントしてアクセス回数を管理する機能とを有し、

前記メニユーザを管理するメニユーザ運営事業者は、前記サービス事業者ごとに前記アクセス回数に応じて課金することを特徴とするメニユーザサービスシステム。

【請求項9】 前記携帯端末は、前記サービス事業者の通信機器と近距離無線通信を行って該サービス事業者の識別情報を受信する無線通信機能を有し、前記受信したサービス事業者の識別情報を前記クライアント・コンピュータに入力する機能とを有することを特徴とする請求項8のメニューサービスシステム。

【請求項10】 前記クライアント・コンピュータは、前記クライアント・アプリケーションに基づいてディスプレイ上に表示されたメニュー更新ボタンが操作されると、前記サービス事業者の識別情報、ユーザの識別情報及びメニュー更新要求をメニューサーバに送信することを特徴とする請求項8又は9のメニューサービスシステム。

【請求項11】 前記メニューサーバは、前記サービス事業者の識別情報に対応するメニューボタン情報をユーザごとに管理する機能を有し、前記ユーザの識別情報及びメニュー更新要求の受信により該ユーザに対応するメニューボタン情報を当該ユーザのクライアント・コンピュータに送信することを特徴とする請求項10のメニューサービスシステム。

#### 【発明の詳細な説明】

##### 【0001】

##### 【発明の属する技術分野】

本発明はインターネットユーザに対してサービス事業者のサービスサーバをアクセスするためのメニューボタン情報を提供し、このメニューボタン情報の提供に対してサービス事業者から課金するようにしたメニューサービス方法及びメニューサービスシステムに関する。

##### 【0002】

##### 【従来の技術】

近年、インターネットの普及により、様々な情報を簡単に検索し、その内容を閲覧することができるようになった。また、サービス事業者は、WWWサイトを設置することにより不特定多数のインターネットユーザに対して情報を開示することができるようになり、そのサイト上でインターネットショッピングなどの商取引を実施することも可能となった。

##### 【0003】

## 【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、ユーザが必要としているサービス事業者の提供している情報を得るには、その情報の格納場所（URL（Uniform Resource Locators））が既知でそれを入力するか、リンクされる別のサイトからアクセスするか、もしくは検索サービスにより検索する必要があり、煩雑であるという問題がある。

## 【0004】

一方、サービス事業者は、ターゲットユーザを例えば自分の運営する店舗に来てくれた者などに絞って情報を提供することができず、ターゲットユーザに対してインターネットサービスを効率よく提供し、マーケティングすることができないという問題がある。

## 【0005】

本発明はこのような事情に鑑みてなされたもので、ユーザに対しては該ユーザが関心をもっているサービス事業者の情報の取得を容易にし、サービス事業者に対しては上記ターゲットユーザに絞った効率のよい情報の提供を実現させ、かつサービス事業者が得る利益に対して課金することができるメニューサービス方法及びメニューサービスシステムを提供することを目的とする。

## 【0006】

## 【課題を解決するための手段】

前記目的を達成するために本願請求項1に係るメニューサービス方法は、ユーザの携帯端末及び／又はクライアント・コンピュータからサービス事業者の識別情報をメニューサーバに送信し、前記メニューサーバは、前記受信したサービス事業者の識別情報に対応するメニューボタン情報をクライアント・コンピュータに送信し、前記メニューボタン情報を受信したクライアント・コンピュータは、所定のクライアント・アプリケーションに基づいて前記メニューボタン情報に従ってディスプレイ上にメニューボタンを表示し、該メニューボタンの操作に基づいて対応するサービス事業者のサービスサーバにアクセス可能にし、前記メニューサーバを管理するメニューサーバ運営事業者は、前記サービス事業者に対して課金することを特徴としている。

## 【0007】

即ち、ユーザ側からサービス事業者の識別情報をメニューサーバに送信することにより、該メニューサーバから前記サービス事業者のサービスサーバにアクセスするためのメニューボタン情報を取得する。ユーザは、前記取得したメニューボタン情報に基づいてディスプレイ上に表示されたメニューボタンを操作することにより、対応するサービス事業者のサービスサーバに簡単にアクセスすることができる。これにより、サービス事業者は、前記メニューボタン情報を取得したユーザに絞って効率のよい情報を提供することができ、メニューサーバ運営事業者は、メニューボタンの登録を希望するサービス事業者から課金することができる。

#### 【0008】

本願請求項2に示すように前記クライアント・コンピュータは、前記メニューボタンの操作に基づいて該メニューボタンに対応するサービス事業者のアクセス回数のカウント要求を前記メニューサーバに送信し、前記メニューサーバは、前記クライアント・コンピュータから前記サービス事業者のアクセス回数のカウント要求を受信するごとに、該サービス事業者のアクセス回数をカウントアップし、前記メニューサーバ運営事業者は、前記サービス事業者ごとに前記アクセス回数に応じて課金することを特徴としている。

#### 【0009】

前記サービス事業者の識別情報は、本願請求項3に示すように該サービス事業者の通信機器からユーザの携帯端末に近距離無線通信により送信され、該携帯端末から直接メニューサーバ又は前記クライアント・コンピュータを介してメニューサーバに送信されることを特徴としている。これにより、ユーザが携帯端末をもってサービス事業者の店舗等を訪問することにより、自動的にサービス事業者の識別情報を収集することができる。

#### 【0010】

前記サービス事業者の識別情報は、本願請求項4に示すようにユーザの携帯端末の入力手段で手入力され、該携帯端末の通信機能により直接メニューサーバに送信され、又は本願請求項5に示すように前記クライアント・コンピュータの入力手段で手入力され、該クライアント・コンピュータからメニューサーバに送信

されることを特徴としている。即ち、外出先でサービス事業者の識別情報が掲示された掲示物などを見たユーザが、自分でサービス事業者の識別情報を入力してもよい。

#### 【0011】

前記クライアント・コンピュータは、本願請求項6に示すように前記クライアント・アプリケーションに基づいてディスプレイ上に表示されたメニュー更新ボタンが操作されると、前記サービス事業者の識別情報をメニューサーバに送信することを特徴としている。

#### 【0012】

前記メニューサーバは、本願請求項7に示すように前記サービス事業者の識別情報に対応するメニューボタン情報をユーザごとに管理し、前記クライアント・アプリケーションに基づいてディスプレイ上に表示されたメニュー更新ボタンが操作され、ユーザの識別情報とともにメニュー更新要求を受信すると、該ユーザに対応するメニューボタン情報を当該ユーザのクライアント・コンピュータに送信することを特徴としている。

#### 【0013】

本願請求項8に係る発明は、クライアント・コンピュータと、メニューサーバ運営事業者のメニューサーバとからなるメニューサービスシステムにおいて、前記クライアント・コンピュータは、所定のクライアント・アプリケーションに基づき手入力又は携帯端末から入力したサービス事業者の識別情報を前記メニューサーバに送信する機能と、前記メニューサーバから受信したメニューボタン情報に基づいてメニューボタンをディスプレイ上に表示させる機能と、前記ディスプレイ上に表示されたメニューボタンの操作に基づいて対応するサービス事業者のサービスサーバにアクセスする機能と、前記サービス事業者のサービスサーバにアクセスするごとに、該サービス事業者の識別情報を前記サービスサーバに通知する機能とを有し、前記メニューサーバは、前記クライアント・コンピュータから受信したサービス事業者の識別情報に対応するメニューボタン情報をクライアント・コンピュータに送信する機能と、前記クライアント・コンピュータからのアクセス通知をサービス事業者ごとにカウントしてアクセス回数を管理する機能

とを有し、前記メニューサーバを管理するメニューサーバ運営事業者は、前記サービス事業者ごとに前記アクセス回数に応じて課金することを特徴としている。

【0014】

前記携帯端末は、本願請求項9に示すように前記サービス事業者の通信機器と近距離無線通信を行って該サービス事業者の識別情報を受信する無線通信機能を有し、前記受信したサービス事業者の識別情報を前記クライアント・コンピュータに入力する機能とを有することを特徴としている。

【0015】

前記クライアント・コンピュータは、本願請求項10に示すように前記クライアント・アプリケーションに基づいてディスプレイ上に表示されたメニュー更新ボタンが操作されると、前記サービス事業者の識別情報、ユーザの識別情報及びメニュー更新要求をメニューサーバに送信することを特徴としている。

【0016】

前記メニューサーバは、本願請求項11に示すように前記サービス事業者の識別情報に対応するメニューボタン情報をユーザごとに管理する機能を有し、前記ユーザの識別情報及びメニュー更新要求の受信により該ユーザに対応するメニューボタン情報を当該ユーザのクライアント・コンピュータに送信することを特徴としている。

【0017】

【発明の実施の形態】

以下添付図面に従って本発明に係るメニューサービス方法及びメニューサービスシステムの好ましい実施の形態について説明する。

【0018】

図1は本発明に係るメニューサービスシステムの概略構成図である。同図に示すメニューサービスシステムは、主としてクライアント・アプリケーション（この実施の形態では、デジタルカメラ内の画像を一覧表示する画像ビューアソフト）がインストールされているクライアント・コンピュータ10と、メニューサーバ運営事業者のメニューサーバ20とから構成されている。

【0019】

前記クライアント・コンピュータ10は、デジタルカメラ12からカメラクレードル14及びUSBケーブル16を介して画像等の情報の送受信を行うことが可能であるとともに、インターネット上の所望のサービス事業者のサービスサーバ(WWWサーバ)30のアドレスをURLを使って指定し、画像や音声又はその他の情報等をサービスサーバ30に送信し、サービス事業者のサービスを享受できるようになっている。

【0020】

また、クライアント・コンピュータ10は、デジタルカメラ12がカメラクレードル14に装着されることにより、デジタルカメラ12の接続を自動検出(Plug&Play機能を用いる)して、そのデジタルカメラ12内の画像を一覧表示するクライアント・アプリケーションである画像ビューワを自動で起動させる。

【0021】

図2にクライアント・コンピュータ10のディスプレイ上に表示される画像ビューワの表示画面を示す。

【0022】

この画像ビューワが表示する表示画面50内には、フォルダ構造を表示するファイルリスト表示部53と、ユーザが指定したフォルダ内に格納されている画像の縮小画像(サムネイル画像)54を一覧表示する画像一覧表示部55と、各種サービスのメニューボタン51を一覧表示するメニュー表示部56とが設けられている。

【0023】

各メニューボタン51は、各サービスサーバ30へ接続するためのリンクボタンとなっており、例えば、プリントサービスボタン、フォトCD作成サービスボタン、写真公開ボタン、フォトコンテスト投稿ボタン、オークションサイト選択ボタン、携帯電話用表示ボタン、インターネットショッピングサイト選択ボタンなどのサービス選択ボタンが含まれる。

【0024】

ユーザは、ファイルリスト表示部53に表示されているファイル名又は画像一覧表示部55に表示される縮小画像54の一覧から所望の1乃至複数の画像を図

示せずマウス等のポインティングデバイス又はキーボードに代表される入力手段を用いて選択して、所望のメニューボタン51をクリックするだけで、プリントサービス注文に必要な画像等の情報の送信やフォトCD作成サービス、インターネット上の写真公開サービス、及びフォトコンテスト投稿のための画像ファイルや、音声ファイルのアップロードが可能となる。

#### 【0025】

また、画像ビューワ50には、メニュー更新ボタン58が設けられており、ユーザが必要に応じてこのメニュー更新ボタン58をクリックすると、メニューサーバ20にアクセスして最新のメニューボタン情報の取得を行うことができる。尚、メニューボタン情報の取得の詳細については後述する。

#### 【0026】

次に、クライアント・コンピュータ10がユーザ毎にカスタマイズされたメニューボタン情報をメニューサーバ20から取得する方法について説明する。

#### 【0027】

図1において、メニューサーバ20を管理するメニューサーバ運営事業者は、WWWサイトを運営する企業や商店などのサービス事業者（例えば、図1上の店「ABC」）とメニューサービスシステムの利用契約を結ぶ。この利用契約により、メニューサーバ運営事業者は、サービス事業者ごとに固有の識別情報（以下、「店ID」という）を発行し、メニューサーバ20のデータベース22に店IDに対応するメニューボタン情報（店ID、WWWサイトのURL、ボタン画像など）を登録する。

#### 【0028】

一方、店「ABC」には、前記メニューサーバ20に登録された店IDを無線送信するブルートゥース規格の近距離の無線通信機器（図示せず）が設置され、またデジタルカメラ12にもブルートゥース規格の近距離の無線機器が設けられているものとする。

#### 【0029】

図1に示すように、ユーザがデジタルカメラ12を携帯して店「ABC」を訪問し、店「ABC」に設置された無線通信機器の通信圏内にデジタルカメラ12

が入ると、両者の無線通信機器の間で自動で無線通信が開始され、店IDがデジタルカメラ12に入力される。このようにユーザがデジタルカメラ12を携帯して、サービス事業者を訪問することにより、ユーザが意識せずに店IDがデジタルカメラ12に自動入力される。

#### 【0030】

その後、ユーザが帰宅し、上記店IDが入力されたデジタルカメラ12をカメラクレードル14に装着するとともに、クライアント・コンピュータ10の電源を入れると、前述したようにデジタルカメラ12内の画像を一覧表示するクライアント・アプリケーションである画像ビューワが自動起動され、クライアント・コンピュータ10のディスプレイには、図2に示した画像ビューワが表示される。

#### 【0031】

ここで、ユーザがメニュー更新ボタン5-8をクリックすると、メニューサーバ20にアクセスし、クライアント・コンピュータ10からメニュー更新要求とともに、ユーザIDがメニューサーバ20に送信される。また、デジタルカメラ12からは店IDが読み取られ、この店IDもメニューサーバ20に同時に送信される。

#### 【0032】

メニューサーバ20は、ユーザ(ユーザID)ごとに店IDをデータベースとして管理しており、上記のようにして受信した店IDは追加登録される。前述したようにメニューサーバ20は、各店IDに対応してメニューボタン情報を管理しており、ユーザIDで管理されている店IDに対応するメニューボタン情報をデータベースから読み出し、該メニューボタン情報をクライアント・コンピュータ10に送信する。

#### 【0033】

クライアント・コンピュータ10は、上記メニューボタン情報をダウンロードし、ダウンロードしたメニューボタン情報に基づいて画像ビューワ50のメニュー表示部56にボタン画像の表示を行うとともに、ダウンロードしたメニューボタン情報をコンピュータ内の記憶領域に保存する。これにより、クライアント・

コンピュータ10の画像ビューワ50におけるメニューボタン51の一覧表示が更新される。

#### 【0034】

上記のようにして画像ビューワ50に一覧表示されメニューボタンのうち、ユーザが所望のメニューボタン51を押すと、画像ビューワ50がそのメニューボタン情報に書かれているアクセス方式とURLで、サービス事業者のサービスサーバに接続する（例えば、WWWブラウザを起動し、メニューボタン情報に書かれるサービスサーバのURLを渡す）。これにより、ユーザは所望のサービス事業者のサービスサーバにアクセスしてサービス事業者のサービスを享受することができる。

#### 【0035】

また、クライアント・コンピュータ10は、前記メニューボタンの操作によってサービス事業者のサービスサーバにアクセスすると、そのサービスサーバを運営するサービス事業者の店ID及びユーザIDをメニューサーバ20に通知し、アクセス回数のカウントを要求する。

#### 【0036】

メニューサーバ20は、サービス事業者（店ID）ごとにアクセス回数を管理しており、クライアント・コンピュータ10からサービス事業者のアクセス回数のカウント要求を受信すると、対応するサービス事業者のアクセス回数を計上する。

#### 【0037】

そして、メニューサーバ20は、サービス事業者ごとに計上したアクセス回数に応じてサービス事業者に対して課金する。尚、サービス事業者に対する課金は、電子決済で行ってもよいし、銀行振替、代引きなどの支払方法でもよい。

#### 【0038】

このようにWWWサイトを運営する企業や商店などのサービス事業者は、一度店舗を訪問したユーザを効率よく、そのWWWサイトへ導くことができ、店舗に足を運んだユーザに対して効率よくマーケティングすることができる。一方、ユーザは、自分が実際に行ったお店のWWWサイトに簡単にアクセスすることができ

き、これまでの検索作業やリンクを辿る作業が軽減できる。また、メニューサーバ運営事業者は、メニューボタンの登録を希望するサービス事業者に対してアクセス回数に応じて課金することにより利益を上げることができる。

#### 【0039】

尚、この実施の形態では、ユーザ所有のデジタルカメラ12を介してサービス事業者の店IDを取得するようにしたが、これに限らず、携帯情報端末（PDA）や携帯電話などの他の携帯端末を介してサービス事業者の店IDを取得するようにしてもよい。また、店舗やある地点を訪問したユーザの携帯端末に、サービス事業者の店IDをブルートゥース規格の近距離無線通信によって自動入力するようにしたが、これに限らず、サービス事業者の店舗などに設置された端末に携帯端末を電気的に接続して、該サービス事業者の店IDを携帯端末に取り込んだり、携帯端末が手入力によって店IDを入力する手段を有する場合には、サービス事業者の店舗での掲示物やチラシなどに記載された店IDを手入力で携帯端末に取り込むようにしてもよい。更に、クライアント・アプリケーションに店IDを手入力する機能を持たせてもよい。

#### 【0040】

また、この実施の形態では、画像ビューワ50のメニュー更新ボタン58が押されたときに、携帯端末（デジタルカメラ10）に取り込まれた店IDを読み取り、これをメニューサーバ20に送信するようにしたが、携帯端末が直接メニューサーバ20との通信機能を有する場合には、該携帯端末から直接メニューサーバ20をアクセスし、ユーザIDとともに店IDをメニューサーバ20に通知するようにしてもよい。

#### 【0041】

更に、クライアント・アプリケーションは、画像ビューワに限らず、各種サービスのメニューボタンを一覧表示するメニュー表示部を有するランチャのようなものでもよい。

#### 【0042】

更にまた、メニューサーバ運営事業者は、メニューボタンの登録を希望するサービス事業者に対してアクセス回数に応じて課金するようにしたが、これに代え

て又はこれと同時に月、年単位などでメニューボタンの登録料を徴収するようにしてもよい。

【0043】

【発明の効果】

以上説明したように本発明によれば、ユーザ側からサービス事業者の識別情報をメニューサーバに送信し、該メニューサーバから前記サービス事業者のメニューボタン情報を取得できるようにし、前記メニューボタン情報に従ってディスプレイ上に表示されたメニューボタンを操作することにより対応するサービス事業者のサービスサーバにアクセスできるようにしたため、WWWサイトを運営する企業や商店などのサービス事業者は、ターゲットユーザを効率よく、そのWWWサイトへ導くことができ、効率よくマーケティングすることができる。また、ユーザは、自分が実際に行ったお店などのWWWサイトに簡単にアクセスすることができ、これまでの検索作業やリンクを辿る作業が軽減できる。更に、メニューサーバ運営事業者は、メニューボタンの登録を希望するサービス事業者に対して課金することにより利益を上げることができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】

本発明に係るメニュー・サービス・システムの概略構成図

【図2】

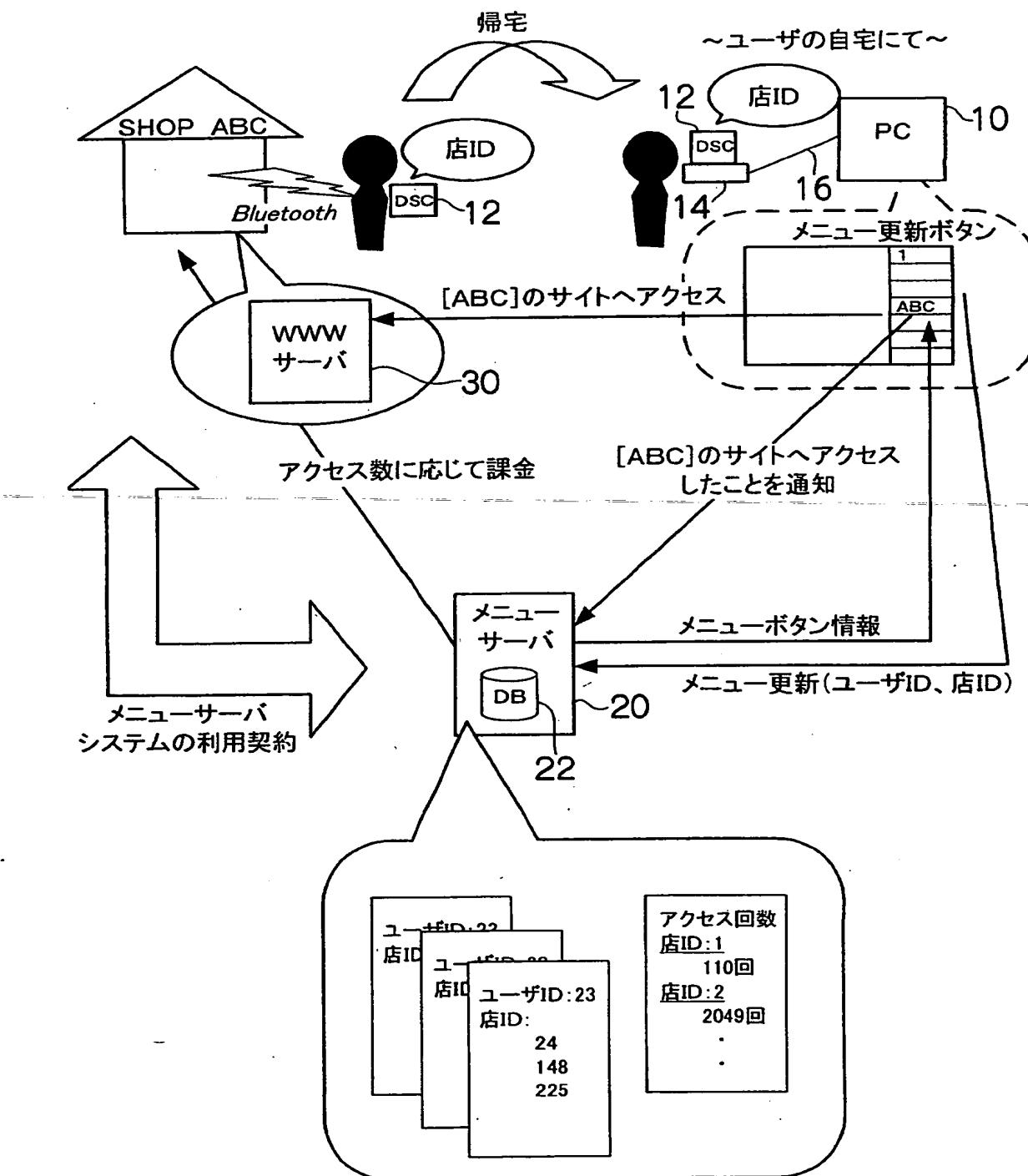
図1に示したクライアント・コンピュータのディスプレイに表示される画像ビューワの表示画面を示す図

【符号の説明】

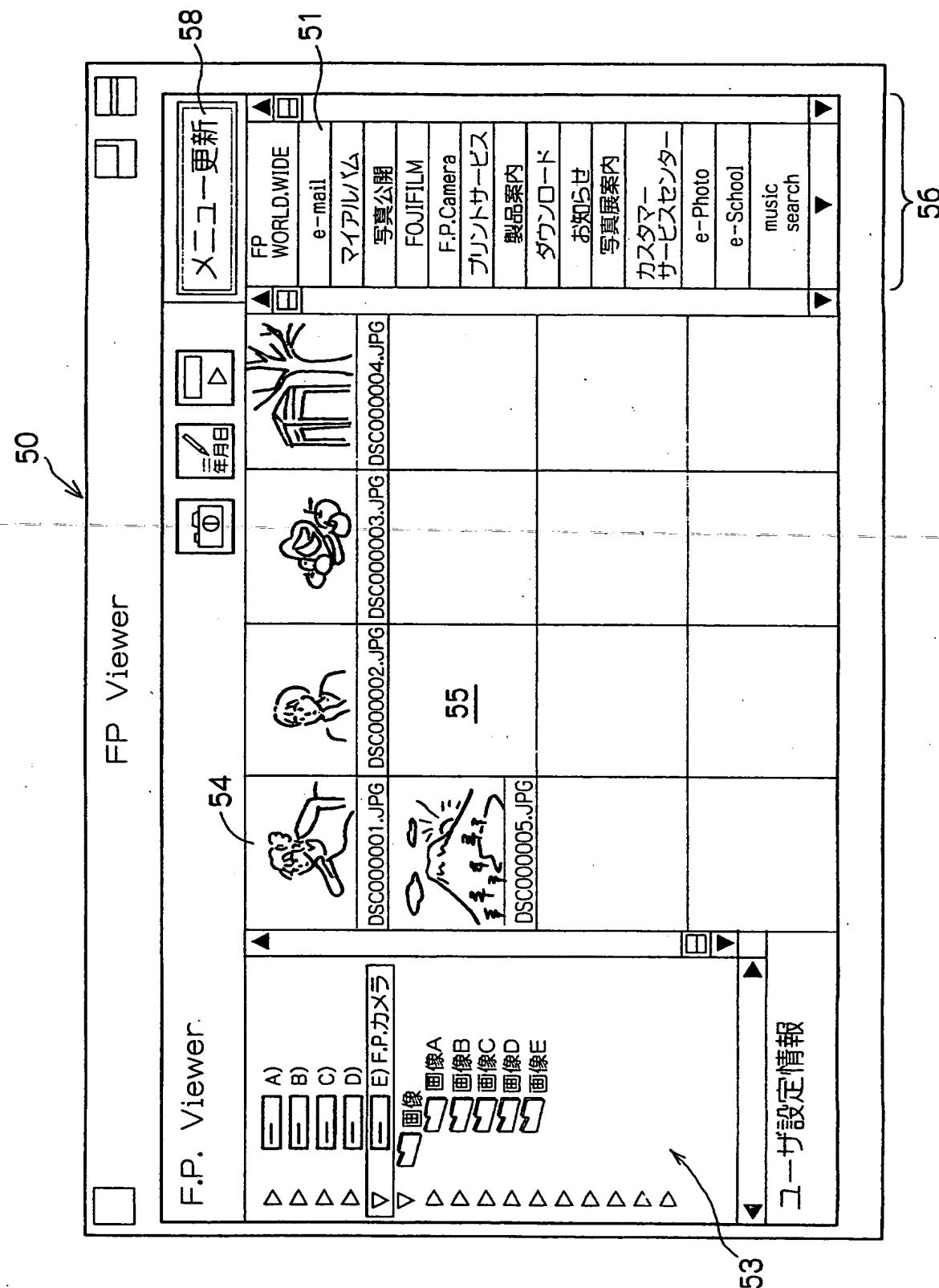
10…クライアント・コンピュータ、12…デジタルカメラ、20…メニュー・サーバ、30…サービス・サーバ

【書類名】図面

【図1】



【図2】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 ユーザに対しては該ユーザが関心をもっているサービス事業者の情報の取得を容易にし、サービス事業者に対してはターゲットユーザに絞った効率のよい情報の提供を実現させ、かつサービス事業者が得る利益に対して課金する。

【解決手段】 ユーザは外出先で近距離通信機能を有するデジタルカメラ12によりサービス事業者から店IDを取得し、帰宅後にクライアント・コンピュータ10から前記店IDをメニューサーバ20に送信する。メニューサーバ20は、受信した店IDに対応するメニューボタン情報をクライアント・コンピュータ10に送信し、このメニューボタン情報を受信したクライアント・コンピュータは、ディスプレイ上にメニューボタンを表示し、該メニューボタンの操作に基づいて対応するサービス事業者のサービスサーバ30にアクセス可能にする。メニューサーバ20を管理するメニューサーバ運営事業者は、メニューボタンの登録を希望するサービス事業者に対して課金する。

【選択図】 図1

Fig. 3

